

オルタスクエア株式会社  
設立 10 周年 記念誌



ALTER SQUARE

オルタスクエア(株) 設立10周年記念誌

発行日 2008年12月13日

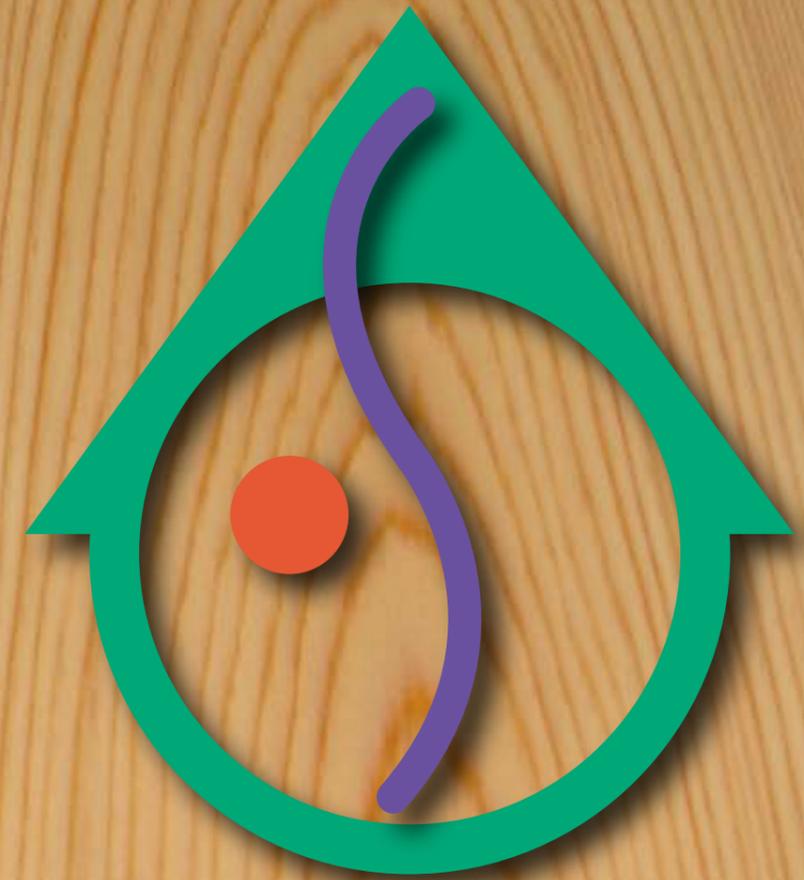
発行者 オルタスクエア株式会社

住 所 横浜市港北区新横浜 2-8-4  
オルタナティブ生活館1F

電 話 045-476-1105

F A X 045-476-1106

<http://www.a-sq.co.jp>



ALTER  
SQUARE

# はじめに

## ご挨拶



オルタスクエア株式会社

代表取締役 井上 雅喜

—新たな10年のスタートに当って—

早いもので、1998年にオルタスクエアが株式会社として生活クラブの「住まいの相談室」から独立して、おかげをもちまして10周年を迎えることができました。

これもひとえに皆様方の温かい御支援、御協力の賜物と深く感謝申し上げます。

協同組合ではよく、素人（アマチュア）と専門家（プロ）の二つの違ったグループが一緒になり、事業を営むことが特徴のひとつとされていますが、当社においても私を含めた生活クラブからの出向職員（常勤・非常勤）と、志を同じくする共同経営者である建築士によって、試行錯誤を繰り返しながらオルタスクエアの事業を進めてまいりました。

「健康」「環境」「街づくり」に配慮した住まいづくりを理念とし、「公開」「高品質」「適正価格」をモットーとして、この10年間で新築住宅100棟の実績を得られたことは、組合員をはじめ皆さんの御協力があったればこそであり、これからのオルタスクエアにとっての励ましとなるものです。

事業の種類や形態は株式会社であっても、今後は尚一層、真に「組合員ニーズ」に根ざし、何よりも生活クラブ運動グループにとって有用な「住」関連事業として、その機能を高めていく決意です。加えて、地球環境危機が深まる中で「住宅」事業者としての責務であり、使命ともいえる環境問題へのオルタナティブな対応を事業を通じて具体化し、社会への発信力を強めていくことに努めてまいります。

今後ともさらなる御支援、御協力をお願いして、創立10周年のご挨拶とさせていただきます。

## 祝辞



生活クラブ神奈川理事長

鈴木 優子

10周年、おめでとうございます。

生活クラブの組合員のための「住宅相談室」として1985年に始まり、利用事業としての「オルタスクエア」を経て、株式会社として独立して10年がたちました。

設立の時の基本理念には、“21世紀に向けて、新たな生き方、暮らし方、そしてコミュニティーのあり方、住環境のあり方をトータルに捕らえた「衣食住」から「医・職・住」による「新たな生活者市民の住まい方」を追究し提案します”とあります。当時は、コミュニティ・リビングの提案があったり、家作りとエコロジーをテーマとした講座が開催されていました。2000年代に入ると、シックハウス症候群が社会問題となり、有害化学物質を使わない建材を使ったリフォームが提案され、組合員の支持を得ました。さらに、介護住宅のニーズが多くなり、段差をなくす、手摺をつけるといったリフォームが増え、一方で子どもの屋内での事故に注目し、「住まいと、子どもと安全・健康・環境」の講座が注目されています。

このように、常に組合員ニーズにこたえる形で住まいの課題解決を図ってこられたことに敬意を表し、今後も環境にやさしい住まいづくりのところで連携していきたいと思っております。



## はじめに

- |   |                     |         |
|---|---------------------|---------|
| 1 | オルタスクエア(株)のあゆみ      | 3 - 4   |
| 2 | オルタスクエア リフォームへのこだわり | 5 - 6   |
| 3 | 新築100棟の実績から         | 7 - 8   |
| 4 | 4人の建築士の事例           | 9 - 16  |
| 5 | 小さなコミュニティリビングの取り組み  | 17 - 18 |
| 6 | 10年の到達点—オルタハウスMUKU  | 19 - 20 |
| 7 | 職の専門家集団—オルタサークル     | 21 - 22 |

# 1 オルタスクエア(株)のあゆみ

## 10年の歩み

- 98 ● 10月会社設立  
● 生活クラブの太陽光発電モニター事業を継続  
● オルタハウス・プロジェクト35計画の立ち上げ
- 99 ● 1周年フェスティバル開催  
● オルタサークル発足
- 00 ● コミュニティリビング新築見学会(3棟)を開催(横浜市西寺尾)
- 01 ● オルタハウスバージョン1号見学会開催(川崎市多摩区)
- 02 ● 第1回バスツアー見学会開催  
● 脱化学物質侵食社会アクションフォーラム(生活クラブ)に参加
- 03 ● オルタハウス AH55バージョン計画の立ち上げ  
● 「高齢社会の住まい方」政策検討プロジェクト設置  
● ホームページ開設
- 04 ● 「住まいの連続講座」を開催  
● クレームゼロに向けた対策提案を行う
- 05 ● 地域限定キャンペーン(塗装・屋根)をスタートさせる  
● オルタサークル活動が再スタート
- 06 ● オルタハウス MUKU を発表  
● 第2回「住まい方・暮らし方アンケート」を生活クラブ、福祉クラブで実施  
● 第1回「健康で安心な住まい・展」を実施  
● ホームページをリニューアル
- 07 ● エコ講座のテーマが「健康編」「子育て編」の2本立てとなる
- 08 ● 大分林産地見学ツアーを実施



1周年フェスティバル(神奈川区西寺尾)



住まいの連続講座



健康で安心な住まい・展



植林イベントに参加(岐阜県東白川村)

## 「住まいの相談室」から「オルタスクエア株式会社」に

1985～94年度の10年間、生活クラブ神奈川は「住まいの相談室」事業を行い、組合員の住まいのニーズに対し協同組合的な問題解決手法を構築していくことを目指しました。これらの活動を総括し、あらためて組合員リーダーと意思ある建築士たちが連携して、生活者＝住まい手の代理人・機能を果たすことができる本格的な住まいづくり事業を立ち上げるようになりました。

1996年6月、生活クラブ生協神奈川・コミュニティクラブ生協(後に生活クラブ生協に統合)・福祉クラブ生協の組合員代表メンバー7名、建築士7名、不動産専門家1名からなるプロジェクトが発足し、住まいづくり事業の活動・事業構想を検討しながら、「オルタスクエア」という名称のもとに新築設計やリフォーム工事監理等の事業を実験的にスタートさせ、理念と実践の両立を目指し法人化の準備を開始しました。

1998年10月、上記の3生協と新たな事業の理念に共鳴した設計事務所、不動産事務所など6社が出資金とスタッフを出し合って、オルタスクエア株式会社が設立しました。

## どのような会社か

### 1) 安全・健康・環境共生型の住まいづくりと情報公開を実現するパートナーシップ

オルタスクエアが活動を始めた時期は、シックハウス問題が広がり始めた時期でした。これらの問題解決のための実践を通して、住まい手と造り手が責任ある工事の実現という緊張関係の、安全・健康・環境共生型の住まいづくりと、住まいづくりの全てのプロセスでの情報公開性を高め、ハウスメーカーの質や価格の情報の「ブラックボックス化」を打破していくことを共に目指すパートナーとしてのオルタスクエアの実績を積み重ねてきました。

### 2) 住まい手の代理人機能

畳の表替えから新築工事に至るまで、重要なのは施工業者の技術力と責任感をいかに最後まで住まい手の視点とニーズに基づいて担保できるかにあります。

組合員からの相談を受ける→施工業者と相談内容・現場状況の共有→施工業者の提案と見積り金額のチェック→適切な施工管理→工事完了確認→アフターフォロー。これが住まい手の代理人としてのオルタスクエアの基本的な役割・機能です。

家づくりの取組みは、生活クラブ組合員の「安全で生産者の顔が見える食材」を求めた自主活動のなかから誕生しました。オルタスクエアが家づくりの特長としているのは、住まい手、および計画・設計を担当する専門家(建築士、不動産含む)と、家づくりにたずさわる職人の三者が、協同作業によって十分な話し合いの上で、適正な価格や施工方法等を決定していくことにあります。

—'98新・生活宣言から—



## 「健康・環境・街づくり」の取組み

シックハウス問題(\*)への取組みとして、ホルムアルデヒド調査機を購入し、独自の調査活動(生活クラブでの「脱化学物質侵食社会アクションフォーラム」への参加)なども行ってきました。これらの具体的な対策として以下実施しています。

- 1) 新しい我が家に喜んで入居した住まいで、なぜ人が病気になるのか。その原因について広く情報を伝え、シックハウスにならないように配慮した新築・リフォームを行うこと。
- 2) さらに進んで、住まい手の健康を支える住まいを実現するため、無垢材や漆喰といった自然素材を活用すること。
- 3) 住まい手の信頼に応えられる技術力と責任感のある施工集団を組織化すること。
- 4) さらに国内林産地との連携を探り、国内林業の再生ひいては地球規模での森林再生にも寄与するネットワークづくり。

### \*シックハウス症候群

近年の住宅が特に、冷暖房効率を向上させるため、気密性に優れていることから換気が不十分になりやすくとされ、また昭和30年前後から始まった高度経済成長期の住宅建材の大量需要に併せて木目を紙に印刷して木材のように見せるプリント合板に代表される新建材等が盛んに現代建築に用いられ、これらが既に欠くことが出来ない要素であるために、1990年代より室内空気の汚染が問題視されるようになってきた。なお2003年建築基準法の改正により、

- 1、建築材料をホルムアルデヒドの発散速度によって区分し使用を制限
- 2、換気設備設置の義務付け
- 3、天井裏等の建材の制限
- 4、クロルピリホス(防蟻剤)使用建材の制限などが定められた。(「ウイキペディア」より)

## 2 オルタスクエア リフォームへのこだわり

### 無垢材の積極活用！

現代の日本の住居で「木の床」という場合、その殆どが合板の床を指しており、合板と無垢材の違いを知る機会もありません。合板フローリングは製造過程で多量の接着剤（ホルムアルデヒド）を使用することから、シックハウスに係る重要な建材と位置づけられました。合板フローリングが普及した要因として、低価格であることの他に無垢材に比べクレームの心配がない（割れたり縮んだりしない）ことが挙げられます。オルタスクエアは無垢材フローリングが持つ空気の浄化機能や調湿機能、断熱機能などを評価し先のデメリットも理解を得ながら、利用を呼びかけています。



素足に優しい無垢材

### 沖縄産「月桃」って？

一般の業者では、床下のシロアリ被害を避けるために、5年ごとに予防のための殺虫剤散布を行います。しかし、床下の殺虫剤散布は化学物質過敏症を引き起こす大きな要因でもあります。オルタスクエアでは予防のための殺虫剤散布は行わず、シロアリの専門家が年に1回床下を点検し、シロアリの出現が認められたときのみ、沖縄の植物「月桃（げっとう）」の成分によりシロアリを駆除するという方法を提案しています（これまでに150世帯の組合員が定期点検契約を行う）。



月桃の花

### こだわってます～国産減農薬畳

畳の中に農薬入り防虫シートが使用されていることを知らない人が多いです。また現在流通している80%が中国産のイグサ（畳表の材料）ですが、オルタスクエアでは生活クラブのイグサの共同購入産地（熊本や福岡など）との独自開発により、有機農法で栽培された丈夫で香りの良い国産減農薬畳を提案しています。



### 漆喰（しっくい）の良さを生かす

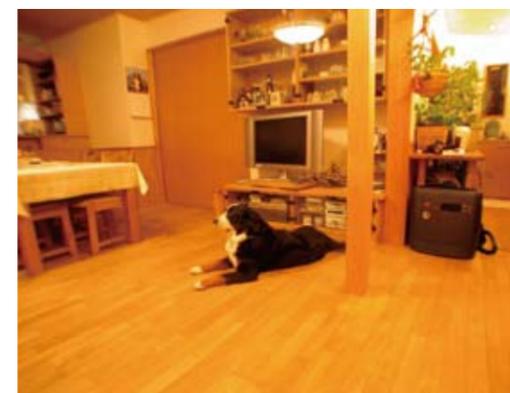
一般的な壁紙は塩化ビニールでできた量産品で、価格が安く施工も簡単なことから現在最も普及していますが、素材に含まれる化学薬剤や廃棄処理などの問題があります。オルタスクエアでは再生紙を原料とした壁紙の他、昔ながらの「漆喰」施工を提案しています。漆喰は室内空気を浄化するばかりか調湿機能もあります。また外壁塗装で使用されるペンキは、シンナー等の有機溶剤が多く使われ、シックハウスとなる大きな要因となっています。これらの対策として大手塗料メーカーとの提携により、安全性の高い独自のオリジナル塗料を開発し施工しています。



漆喰塗り体験講座

### 床暖房～韓流オンドルのすすめ

エアコンなどで空気を温める暖房を不快と感じる人が多くいます。実際、肌が乾燥したり喉が荒れたりという自覚症状も多く聞かれます。床暖房は足元から輻射熱で身体を温め血行を促す暖房で、心地よだけでなく血行不良から起こる様々な症状に対して効果があるといわれており、オルタスクエアの新築の約80%近くで採用しています。



お腹もホッコリ温かい

### 介護リフォームも自然素材で

福祉環境コーディネーターが、ケアマネージャーと連絡を取り合いながら、希望者の状況を調査し、ヒアリングを丁寧に行い、介護リフォームのプランを提案します。施工に際しては私たちの得意な自然素材を活用することもあります。



手摺の位置を確認

### やってます～住まいの診断業務からハウスクリーニングまで

一般では営業行為の一環として無料で行う診断業務ですが、場合によっては無用となる工事も多いことから、シロアリと屋根診断は有料として、より丁寧な診断内容と対策の提案業務を行っています。また中古住宅等の取得に際しての建物診断業務も好評です。

その他の取組みとして2007年度から除カビ・防カビ施工の取組みを行い徐々に広がりを見せています。最も取組み件数が多いハウスクリーニングと布団丸洗いは生活クラブ生協のOCR注文での取組みとなり、さらに取組み件数が増大しています。



除カビ・防カビ施工

# 3 新築 100 棟の実績から

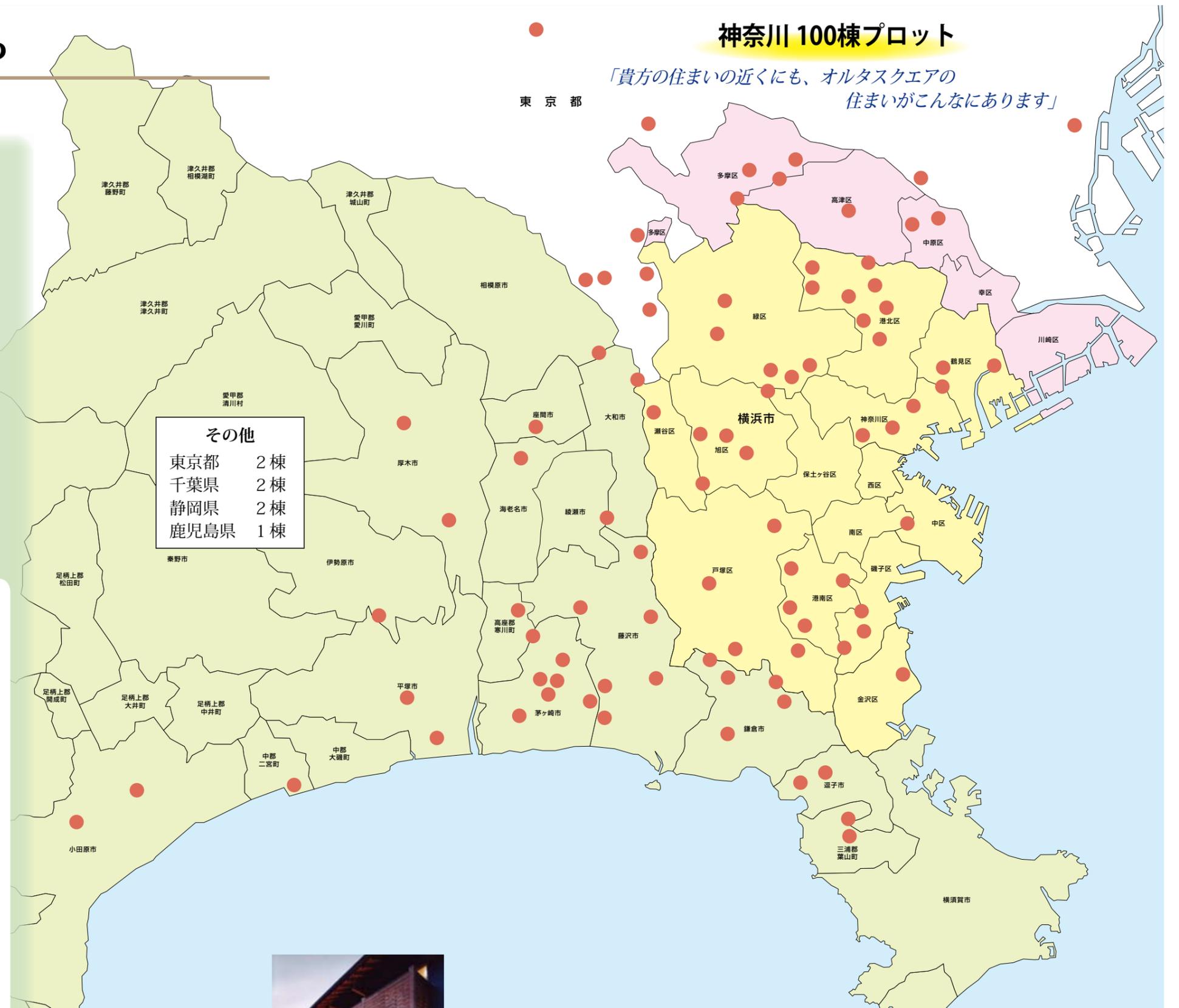
これまでの10年間で約100棟（会社設立の準備期間を入れると120棟）の家造りを行ってきました。オルタスクエアならではの家造りを目指したオルタハウスは2006年に「オルタハウスMUKU」として広く発表することができました。またこれまでの現場見学会企画回数は51回行い、延べ675組の参加がありました。

2007年には、新築設計での基本的な考え方を以下の5点にまとめました。

- ①新鮮な空気を深呼吸できる家
- ②夏、エアコンをほとんど使わずに過ごせる家
- ③家族とともに成長する家
- ④木材の地産地消
- ⑤住まい手・つくり手・林産地の顔の見える関係

## 「まとめて3件見られる」バスツアー見学会

2002年2月に川崎地域で初めて取り組んだバスツアー見学会は、当社の新築物件をエリアを絞りまとめて3件見てもらい、土地取得から新築設計のサポートまでを積極的に働きかける企画として誕生しました。具体的には中型バス（25人乗り）をチャーターし（1～2台）、一度に3棟の新築現場を半日かけて見学するものです。その後2006年に再組み立てし、現在に至っています。2002年から2008年まで10回の企画を開催し、234組の参加がありました。最も参加者が多かったのは2006年度の冬企画で、初めての床暖房体験企画が好評でした（39組参加）。



# 4 4人の建築士の事例 その1

## ■ 設計者の一言

現在お子さんが2人。3人になっても大丈夫な造りの子供部屋を用意し、又将来の親御さんの同居にも備えて増築可能な計画としました。建具等は今無くてもこれから付け足して行けるものは出来るだけ節約し、床暖房等の費用に当てました。縁側が在り、深い軒を出し、構造の柱・梁が表しの在来工法で出来た、どちらかと言うと少し古風な無垢の木だらけの住まいです。

敷地面積：55坪  
述面積積床：27坪  
設備：温水式床暖房、エコウイル  
屋根：ガルバリウム鋼板  
外壁：防火サイディング張り  
床：松無垢板張り  
壁：杉無垢板張り、土佐紙



## 「広い縁側、深い軒、家中木だらけ、子供が居間で勉強する家」

### 横浜市緑区 S 邸

## ■ 施主からのメッセージ

5月の連休中にハウスメーカーを何件もまわりましたが、どこも箱を作って間取りを取っていくようなプランの提案で、少々とまどいました。堺原さんに私たちの話を聞いていただき出てきた手書き図面は、それまで見てきたプランとは違って、建てる前から家族の住む様子が伝わってくるものでした。何軒か堺原さんの建てた家を見学させて頂き、「軸組みの木の家で」という私たちの希望にもぴったりだったので、お願いすることにしました。実際に住んでみると、かねてから堺原さんが言っていたように、音はつつめ、春の朝方でも寒い。でも、それって家族の雰囲気を感じられる、夏を涼しく過ごせることの裏返しなんですね。マンションで暮らしていたころに比べて、朝日と鳥の声と共に起き、風や虫の音を聴き、日々自然を感じるようになりました。子どもたちが毎日階段から飛び降りて、生き活きとしている様を見るにつけ、オルタスクエアに出会えてよかった！と思います。



## ■ プロフィール

堺原 敏夫 1950年生れ 讃岐出身 O型  
趣味：歌、ゴルフ、うどん、酒

## ■ 設計思想

**素まい**：何で作られているか、誰が作ったかが一目瞭然な素材（建材）で造る、既製品を少なく飾らない、さわり心地の良い「すまい」。

**巢まい**：家族の思い出がしっかりと刻まれ、ずっと詰まった、移り変わりにもびくともしないタフな「すまい」。

**住まい**：自由に自分色をつけ、思う存分使いこなせ又使い込めるアナログでローテクな住みごこちの良い「すまい」。

こんな「すまい」を現代民家と位置付け、日本の気候風土歴史が造り上げた木を基調とした構造あらし真壁在来工法で、先人の知恵をもう一度問い直しながら、住み手、職人と三身一体で造って行きたい…そしてスマイル。

## 4 人の建築士の事例

### その2

#### ■ 設計者の一言

玄関を開けるとカーポートに抜ける通り土間があり、その一角に待合が有ります。そこでは唯一庭の緑を眺めながら、身近な人と談笑出来る場所になっている。小上がりにあがると奥に主寝室が有り、さらに階段を上ると主人の書斎コーナーが有り、「家」の中心「ダイニング・リビング」に出ます。天井の高い「白の空間」はロフトやキャットウォーク。さらにはサンルームがヒダのようにまわっています。2階個室からは月見台富士見台とつながり、夏は遠くに花火も楽しめるようになっています。都会の喧騒の中で日々たくましく生活される家族にとって、せめてこの住まいが、ゆったりとくつろげるオアシスであってほしいと願います。尚、奥様が毎日現場に差入れをして下さったこと、職人の努力、協力のおかげで大変精度の高い、すばらしい住まいが実現できたことを心より感謝致します。

敷地面積：40坪  
述べ床面積：41坪  
設備：温水式床暖房・エコウイル  
屋根：ガルバリウム鋼板  
外壁：ガルバリウム鋼板  
床：フローリング、タイル  
壁：塗装仕上げ、桧縁甲板



## 「都会のオアシス」

### 茅ヶ崎市K邸

#### ■ 施主からのメッセージ

現在小学校5年生になる息子が生まれる前から三回、人生の節目ごとにオルタさんには、今まで住んでいたマンションのリフォームをお願いしてきました。食の安全を追求する生活クラブと同じく、住まいの安全を追求しているオルタさんなら、安心して仕事をお任せできると思ったからです。去年からオルタスクエアの住宅見学会に何回か参加して、井上先生が設計された自然が間近に感じられる風通しの良い住まいに魅了され、先生に全面的にお任せすることにしました。最初にこんな風にしたという希望を伝えましたが、先生はその意図を十分に汲みとってくださり、なおかつ先生のアイデアでいたるところに工夫のある、まさに痒いところに手が届く住まいを作ってくださいました。空が広々見渡せるサンルームや、来客をもてなせる玄関ホール、富士山や丹沢の山々が望める富士見台や、夏の花火大会が見られる月見台等、住む人が楽しく快適に過ごせる空間を設けて下さいました。私達家族がゆったり寛げる癒しの住まいです。



#### ■ プロフィール

井上 哲生 1950年生れ 山口県出身 O型  
趣味:読書(小林秀雄)、詩(金子みすず、中原中也)

#### ■ 設計思想

建築は唯一施主があって成り立つ職業でもある。施主を十分理解することは医者問診に似ている。その過程で不足しているもの改善するもの、さらにより良い理想へと「住まう」共同作業でありたい。また建物が立つ「場」の環境、「風」を読むことも大切である。人の一生は短いようで長い。子育てからはじまり、終の住まいと、めまぐるしい営みに対応できるフレキシブルでキャパシティのある「器」を持つ空間。それで飽きのこない日本人の主食でもある米の味のような、噛めば噛むほど味が出る、そんな建築(住まい)を目指したい。



## 4 人の建築士の事例

### その3

#### ■ 設計者の一言

計画地は当初雑木林に囲まれた敷地でした。天空からは雑木林の木漏れ日が美しく光っていた敷地でした。都市住宅の手法に添って陽の良くあたる場所をリビングとして計画が始まりました。しかし宅地造成の開発により雑木林は切り倒されて一気に富士山まで見渡せる開かれた敷地へと変貌しました。又隣接していた敷地は横浜市の公益用地として、公園から延びるプロムナードになりました。敷地条件は大きく変わりましたが計画当初の「光がたくさん入る」「風の流れを感じる」「四季のうつろいを感じる」をテーマに変更することなく進んで行きました。この住宅の前には大きな木が1本リビングの窓から見えます。かつての雑木林の面影を残し、この家のシンボルツリーの様です。又この家の前にベンチが設置され、市民の憩いの場を提供しています。

敷地面積：45 坪  
述面積床：29 坪（本体のみ）  
設備：温水式床暖房、ジャグジーバス  
屋根：ガルバリウム鋼板  
外壁：アクリル弾性塗装  
床：ナラ無垢材、桧無垢材  
壁：ルナファーザー（ドイツ製クロス）



## 「美しい屋根の家」

### 横浜市旭区 K 邸

#### ■ 施主からのメッセージ

「一戸建てがほしいね。」と思ってから、住宅展示場・建売住宅・妻に無理やり連れられオルタスクエアの見学会にも数回参加しているうちに、竹内さんの設計した家が印象深く設計をお願いしました。設計を依頼してから、入居まで何十回打ち合せをしたでしょうか？関わって頂いた方は身内のように、親身に伝えてくれ、家を建てる過程の楽しさを教えていただきました。おかげ様で娘のアレルギーも経過が良くなり、季節の移ろいを感じる快適な生活を過ごしています（特に夕日が、富士山・丹沢・秩父の山並み落ちる時は絶景）。土地探しから、着工、入居まで2年半、様々なトラブルがあり、入居後も！その度にスタッフの方には、親身な対応・適切なアドバイスをしてもらいました。感謝しております。



#### ■ プロフィール

竹内 邦隆 1964年生れ 長野県出身 B型  
趣味：音楽、野菜作り

#### ■ 設計思想

住宅は空気の器だと思っています。色や匂いは生活の中で徐々についていくと思っています。  
「透徹」：すきとおること。筋道が通っていること。  
そう、私は透徹した建築設計を心掛けています。

# 4 人の建築士の事例

## その4

### ■ 設計者の一言

敷地形状と必要面積から決まった3層の構成。縦のつながりをどのように設計するかがテーマとなりました。個室に仕切って廊下が続くような狭く居る空間ではなく、階段を中心にそれぞれのスペースがゆるやかにつながるように工夫しました。また、人の居場所の目線の高さや窓の位置には細心の注意を払いました。借景によって良好な風景だけを取り込み、水平方向の抜けを感じられるように配慮しました。子供のすこやかな成長を願い、巣立っていく時に記憶に残る住まいであって欲しいと願い「巣箱」という名前をつけました。

敷地面積：42坪  
延床面積：46坪  
設備：温水式床暖房・エコキュート  
屋根：ガルバリウム鋼板  
外壁：杉板+キシラデコール  
床：チーク無垢板・タイル・畳  
壁：漆喰塗・杉板・コンクリート打ち放し



## 「黒の巣箱」

### 横浜市港北区 T 邸

#### ■ 施主からのメッセージ

両親が昔住んでいた平屋は冬寒く、キッチンが居間から離れていたため、妻は家事をしていると家族の会話にも参加できませんでした。また私の書斎は玄関の脇。いろいろと不満のあった古い家を、3人目の子供の誕生もあり建替えを考え始めた際、鈴木さんと出会い、経験と知識が豊富なこと、そして人柄も気に入り設計を依頼しました。

実際に住んでからも様々なメンテナンスのたびに家がグレードアップしていくので、進化しつづける家！と家族では呼んでいます。そういえば「家は完成して終わりではなく、育てていくものだ」と鈴木さんに言われた意味が最近ようやくわかった気がします。住んでからもう4年。子供の成長とともに家が自分たちのものになりました。漆喰も床も本物の質感が気に入っています。



#### ■ プロフィール

鈴木 信弘 1963年生れ 横須賀出身 O型  
趣味：ギター、猫、映画

#### ■ 設計思想

住まいをデザインするためには、住まいを観察する事、そして施主と設計者の対話が大切です。私はプランを作る前にどれだけ対話が出来たかどうかを重視します。オルタスクエアの掲げている設計5か条を基本理念に、それぞれの家族の「ライフスタイル」をどのようにデザインするかが、設計士と一緒に作る住宅の面白さであり、かつ成功する家づくりなのだと思っています。

# 5 小さなコミュニティリビングの取り組み

## 私の住宅史

当社では2000年に横浜市神奈川区の一角に地主の知遇を得て、3軒の住宅を建設することができました。川崎市幸区と中原区の組合員家族、本文筆者（当社監査役）の金丸氏家族による新たな住まい方が始まりました。

### ● はじまり

今から三十一年前、結婚して初めての住処は築二十年程経った平屋の二戸一住宅でした。玄関の式台を上がると4畳半と6畳の和室、奥には3畳程の台所とトイレ、その脇にトタンで被われた粗末なお風呂が付き、同じ間取りが左右対称に一棟となった住まいでした。庭付き住宅と周りに豪語していたものの、ピカピカの新婚夫婦の新居と呼ぶにはあまりに質素な住まいであったため、猫の額ほどの庭を縁取る柵はせめて白いペンキ塗りで新調しようと、汗を流したのを覚えています。

### ● 公団3DK

生活が始まって、どうやら夫婦の真似事も板に付き始めた1年後に、公団の空き家抽選に当たり、次の住処は大規模団地の3DKへと変化しました。動線も短い機能的な住まいと整備された周辺環境、暮らしが一挙にモダンリビング化できると夫婦そろってワクワクしながら引っ越したことを覚えています。ここでの暮らしは長く、二人の子供が誕生し気が付けば長男が大学に進学するまでになっていました。さすがに親子四人の器としては手狭で、なんとかならないかとの家族の声は日増しに高まり、私自身も大学に席をおき多くの住まいや街づくりに係わったことで、当初のモダンリビングは画一的で没個性的な住まいへと色あせて見え、終の棲家を何処かにとの思いが強まりました。そんな折、一つの出会いが我が家の家造りの背中を押すこととなります。

### ● であい

そのきっかけは、オルタナティブな住まいを目指す生活クラブ生協のメンバーと、建築家たちの集まりに顔を出したのが始まりです。自然の風や陽の光を活かし、地産地消をテーマに木と漆喰や紙といった自然素材を最大限活用し、住み手の個性と造り手の個性が向き合う多様な住まい方の提案はいかにしたら実現可能なか。毎回の熱い議論は居酒屋まで持ち込まれ、多くの夢を実現に結びつける活動としてオルタスクエアが誕生しました。当初外野席からこれらの議論と活動に係わっていた私が、結果として終の棲家をこのオルタスク



3軒のコミュニティ



施工中



地鎮祭（金丸氏夫妻）

エアで実現することになります。メンバーの建築家が手がけた、マンションの周辺にあった変形の斜面地を活用し、ここにオルタスクエアが目指す住まいと街を実現してみようとの話が持ち上がり、二組の家族と我が家がこれに加わり計画がスタートします。

### ● 三軒のコミュニティ

二家族とは顔合わせを兼ねた集まりを計画以前に持ったことで、既にご近所付き合いが始まり、休日の現場でお会いすることも度重なり、引越するときには既に気兼ねのない関係が生まれていました。オルタスクエアからは三人の建築家がそれぞれ設計を担当することが決まり、街づくりの共通の計画条件が話し合われました。同じ素材で家を計画することで、一体感を生み出すと同時にコストの削減をはかろうとか、切妻屋根で統一感を生み出そうとか、玄関前には同じエゴノキをシンボルツリーとして植えよう等などが話し合われました。計画段階でも、三軒の住宅のスタディー模型を全体の敷地模型の上に載せ、全体の姿や互いの開口部はどのように向き合うのかなどがチェックされ、計画が進められました。また素材も岐阜からヒノキを直接共同購入し、オルタサークルの建設会社一社で工程を調整しながら、三戸を順次建設しコストを抑えて行こうなどの工夫が具体化され、かなりのローコストも実現されました。三人の建築家たちも、間近に自分達の作品が建ち並ぶことで互いに刺激しあい、三家族がそれぞれ思う夢の住宅建設に向け火花を散らしたことはいうまでもありません。当初意図したとおり、一体感を持ちながらもかなり個性的な住まいがその結果実現しています。

### ● これから…

三家族三様の終の棲家が誕生して、すでに10年が経とうとしています。計画当初お母さんのお腹の中にいたお隣のユフちゃんは小学校に上がり、お向かいの小学生だった娘さんは大学受験の年頃に成長しています。それぞれが少しずつ手をいれながら、住みこなすことで、周辺の景色にもなじんだ自然体の三軒の暮らしが根付いたようです。オルタスクエアが目指す家づくりの一つの方向性が、ここにあるように思えてなりません。

（神奈川大学 金丸壽男）

# 6 10年の到達点

## 1) オルタハウスMUKU

若い世代の住まいづくりを支える  
本体工事 1,500 万円住宅の提案

オルタスクエアの新築の基本は、住まい手と建築士が対話をする中で住まいのプランを作っていくことです。しかし、100%オリジナルの住宅設計の場合にはどうしても適正なコストが必要であり、特に若い世代にとって資金面の理由から、理想の住まいづくりを諦めなければならない課題が浮き彫りになってきました。

このことを解決し、次世代住まい手と造り手の協同関係を引き継いでいくための根本的な提案として、第1に最低限、自然素材による健康な空気が保証された住空間をつくること、第2に住まいづくりを通じて、住まい手・建築士・施工業者・林産地の顔の見える関係が形成されること、の二つの基本だけは譲らずに、第3に設計についての一定の規格化、第4に価格面のハードルの低さを形にしたのが「オルタハウスMUKU」です。

建物の骨格は、Aプラン（3間×4間）・Bプラン（2間×6間）の二つで、いずれも総2階建て・述べ床面積24坪です。土地の形状がどうであれ100㎡あれば建てられる家となっています。その基本コンセプトは、

### ①新鮮空気を実現する自然素材

柱・梁を仕上げの内装材で隠さない「真壁在来工法」。柱・梁・床・壁・天井は国産杉材。土台・浴室壁天井・ベランダは国産ヒノキ材。

### ②あえて間取りを取らない

1・2階ともシンプルで大きなワンルームが基本。初めから部屋をいくつ作ると考えなくても、造り付け家具や仕切りの配置でレイアウトできるという考え。

### ③便利な設備はいらない

自然の木材による調湿機能により、高性能なエアコンや換気システムがなくても過ごせるよう設計。キッチンもシンプルな手作り。

### ④顔と名前が分かる職人たちの技

規格住宅においても、現場の職人たちと住まい手との関係づくりは、社会的な価値を持っている。

税込  
オルタスクエアの 1500万円 住宅

# オルタハウス MUKU

<http://www.a-sq.co.jp/>  
TEL : 045-476-1105 / FAX : 045-476-1106 (日曜・祭日休)

日本経済新聞

「オルタハウス」は、住まい手と建築士が対話をする中で住まいのプランを作っていくことです。しかし、100%オリジナルの住宅設計の場合にはどうしても適正なコストが必要であり、特に若い世代にとって資金面の理由から、理想の住まいづくりを諦めなければならない課題が浮き彫りになってきました。

「オルタハウス」は、住まい手と建築士が対話をする中で住まいのプランを作っていくことです。しかし、100%オリジナルの住宅設計の場合にはどうしても適正なコストが必要であり、特に若い世代にとって資金面の理由から、理想の住まいづくりを諦めなければならない課題が浮き彫りになってきました。

「オルタハウス」は、住まい手と建築士が対話をする中で住まいのプランを作っていくことです。しかし、100%オリジナルの住宅設計の場合にはどうしても適正なコストが必要であり、特に若い世代にとって資金面の理由から、理想の住まいづくりを諦めなければならない課題が浮き彫りになってきました。



大分林産地見学ツアー（組合員8家族）

## 2) これからのオルタスクエアの課題と役割

住宅のスクラップ&ビルドの時代は終わり、次第に長く丁寧に住宅に住まうという考え方に移行しつつあります。それに伴い住宅のつくりも、手入れさえすれば長く持つ仕様になっていくと思われれます。現在は様々な工法が宣伝されていますが、質の良い国産木材を使い、風通し良く造られた在来軸組み工法の建物が、高温多湿の日本の風土の中で耐久性を持つことはすでに歴史的に明らかになっています。そのような住まいは、住む人にも地球環境にも優しく、景観として見る人に落ち着きと安らぎを与えるでしょう。そのような環境共生型の住まいの街並みが広がることに貢献していきたいというのが、オルタスクエアの夢です。

### A Plan variation Aプランバリエーション

1 夫婦+子供2人+ホビースペース

1F 2F

2 夫婦+自宅で仕事 (SOHO)

1F 2F

3 年輩の夫婦

1F 2F

4 夫婦+子供1人

1F 2F

### B Plan variation Bプランバリエーション

1 夫婦+子供2人+ホビースペース

1F 2F

2 夫婦+自宅で仕事 (SOHO)

1F 2F

3 年輩の夫婦

1F 2F

4 夫婦+子供1人

1F 2F

# 7 職の専門家集団・オルタサークル

## 技術と意識の向上を目的とする 施工者相互のネットワーク

### サークルの声

- 「住まいは幸せの入れ物」。健康に寄りし快適な暮らしをしながら資産価値を失わない住まい創りに励んでいます。私達の喜びはお客様の笑顔です  
—新築担当・山田
- オルタスクエアの屋根を守るのは95年のノウハウと技術と心を受け継いだ職人衆と四代目です  
—屋根担当・岩崎
- 健康にやさしい塗り壁。自然素材のシックイ珪藻土壁で  
—左官担当・前山
- 温かい木の感触にタップリとオイルをしみこませ活き活きと蘇るテーブルやデスク。一緒に作りませんか  
—家具担当・石井
- 木を通して健康を提案するのは当然。心の健康も提案していきたい  
—無垢材メーカー・岡本
- ペットボトルをリサイクルした断熱材パーフェクトバリアのメーカーです。安全で快適な生活に御活用下さい  
—断熱材メーカー・米田
- 「良いものを永く使いたい」。皮革製品の丸洗いとリペアー、そしてふとんの丸洗いを承っています  
—ハウスクリーニング担当・西川
- 都市ガスを燃料とする次世代型機器で、地球環境に良い住宅づくりのお手伝いをさせていただきます  
—ガス設備工事担当・井上
- 「健康面も考慮した床下のコンサルタント」をモットーに床下環境の改善に取り組みます  
—シロアリ担当・平原
- からだに優しいロビンソンコルクタイル！  
—コルクメーカー・辻
- 大分県の産地と共に、自然の風合を残した杉の構造材をこれからも皆様へお届けします  
—大分県林産地メーカー・福井
- 幸せを生む住まい、10年後20年後本当に良かったと思っただけの住まい創り、それが私達の目指す所です  
—新築担当・西島
- 健やかで安らかな暮らしを提供し、建築を含め様々な用途での木材普及に努めています  
—木材メーカー・江川
- 落葉樹を使って、季節を感じ楽しむ庭を御提案。庭を屋外の御座敷に変えるデッキテラスもお勧めです  
—植栽担当・小塚
- 感謝と思いやりの気持ちを忘れず、常にお客様目線で楽しい夢のあるリフォームを実現致します  
—リフォーム担当・鈴木・都築・大野
- 天然素材・天然成分にこだわり、おいしい空気を創る健康住宅を目指してプロジェクトしています  
—自然塗料メーカー・高山
- お客様の窓辺をカーテンで飾り喜んで頂ければ、幸せを感じるスタッフが誠心誠意対応致します  
—カーテン担当・勝俣
- 伝統的木造建築工法を継承し、環境や健康に配慮した現代の住宅を施主様と共に造ります  
—新築工務店・吉田
- 環境と人に優しい塗料で、より快適に暮らしていただけるように常に努力しております（環境配慮型塗料と耐久性の追及）  
—塗装担当・岡根

## オルタサークルは神奈川県全域をカバーする オルタスクエアの専門集団です

オルタサークルとは、住まい手に近い場所で良質な住まい造りを目指している、オルタスクエアの趣旨に賛同して集まってできた専門集団です。

私達メンバーは、住まい造りには欠かせない建築設計家、工務店、各種専門工事店（屋根、左官、畳、塗装など）、設備業者、建材業者等で構成されており、より良い住まいを提供することができる様、定期的に意見交換、建物の見学会、各種勉強会を行い品質、技術の向上に励んでいます。

安心して生活のできる住まいを、住まい手、設計家、造り手（工務店・専門業者）の三位一体で造って行きたいと思っています。

（オルタサークル：ホームページから）



「住まい展風景」



メンバー全員集合

### 編集後記

【住まいの専門家として】  
「健康・環境・街づくり」をテーマにオルタスクエア株式会社が設立されて10年が経過しました。「住まいの専門家」として様々な組合員のニーズに答えてきましたが、ふり返ると「住まう専門家」である組合員に育てられてきた10年であったように想われます。この10年間の貴重な経験を活かし、いよいよ本当の「住まいの専門家」として組合員に恩返しができる時。これからの10年をその時として位置づけ、新たな想いで再出発させていただきます。

オルタスクエア株式会社  
常務取締役 管理建築士 坂内 博